

アメリカ穀物協会 2021年トウモロコシ収穫時品質レポート： より高い容積重、より低い水分含量と損傷

アメリカ穀物協会(USGC)は今週、トウモロコシの生産と輸出の上位12州から集めた610件のサンプルをもとに2021/2022年トウモロコシ収穫時品質レポートを発表し、過去5回の収穫と比較して、今年の米国産トウモロコシの平均容積重が高く、総損傷とストレスクラックが低いことが明らかになりました。

2021年産のトウモロコシは、平年よりも早く作付けされ、生育期はほぼ温暖であったため、3億8,149万トン(150億1,900万ブッシェル)と史上2番目に多い米国のトウモロコシ収穫量になると予測されています。この十分な供給により、米国は世界有数のトウモロコシ輸出国であり続けることができ、現輸出年度における世界のトウモロコシ輸出量の31.4%を占めると推定されています。



アメリカ穀物協会会長のチャド・ウィリスは、「市場を開拓し、貿易を可能にし、生活を向上させることがアメリカ穀物協会の使命であり、その一環として、世界中の貿易パートナーにこのレポートを提供できることを嬉しく思います。私たちは今年の作物の品質に自信を持っており、このレポートがその詳細についてタイムリーな情報を提供することを願っています」と述べています。

11回目となる今回のレポートによると、2021年は平均よりも早く作付けされ、大半は暖かい生育期を過ぎました。全体では、作柄の65%が良いまたはとても良い状態と評価され、記録的な高収量に近くなっています。

代表的な試験サンプルの平均的な品質は、米国 No.1 等級の等級ファクターの要件を上回っていました。また、90%のサンプルが米国 No.1 等級の等級ファクターの要件を満たし、98%のサンプルが米国 No.2 等級の等級ファクターの要件を満たしています。

今年の作柄は、破損粒と異物(BCFM)の平均値が5年平均よりも低く、総損傷の平均値が5年平均よりも低く、水分含量の平均値が5年平均と同水準でした。また、タンパク質濃度は5年平均よりも低く、ストレスクラックは2020年および5年平均よりも低く、百粒重は5年平均と同水準でした。

試験されたほぼ 99%のサンプルが、米国食品医薬品局 (FDA) のアフラトキシンの規制値を下回りました。100%のサンプルがデオキシニバレノール (DON) またはボミトキシンの FDA 勧告レベルである 5.0ppm を下回りました。フモニシンについては、97.2%が FDA の最も厳しいガイダンスレベルである 5.0ppm を下回りました。

米国農務省の世界農業需給推計 (WASDE) によると、2021/2022 年の米国のトウモロコシの収穫高は、過去 2 番目に大きく (3 億 8,260 万メートルトン/150 億 6,200 万ブッシェル)、平均収量は過去最高 (11.11 メートルトン/ヘクタールまたは 177 ブッシェル/エーカー) になると予想されています。

今年度産のトウモロコシの品質を紹介し、バイヤーからの質問に答えるために、アメリカ穀物協会の代表者による発表イベントが予定されています。最初のイベントは北アジアでヴァーチャルにて行われ、日本、韓国、台湾のバイヤーが参加します。報告書の発表は 2022 年初頭まで続き、参加者に今年のマーケティングイヤーのトウモロコシの品質に関する明確な期待を提供することを目指します。

###